

さをはかるような身振りをする。

座敷 畳——どうぞとばかり掌を上向けた

両手を前斜めから引き寄せ——室

雑誌 月刊(月—刷る—本) 週刊(週—刷

る—本)

砂糖 「甘い」と同じ手まね。

覚る 「知る」と同じ手まね。

淋しい 額の生えぎわのところ、人差指

と親指の指頭を合わせて、一本の髪の毛をつ

まんで、前へ引き出すようにする。所在なく

淋しさに髪の毛を一本つまみ出し考え込む姿

座布団 両手の人差指で小さな四角形を描

いて坐るの手まね。

差別 「別」と同じ手まね。

作法 指頭を上にした両手の人差指を胸

の前で向い合せて、同時に両指をかぎ形に

曲げる。人がお辞儀し合ってる様を模写した

もの。

サボル 「怠け」と同じ。

様々 「いろいろ」と同じ手まね。

寒い 「冬」を見よ。

侍 掌を下に向け、指頭を前方にさした人

差指と中指の手を頭の上に置く(ちよんまげ)

次に両手の人差指を左腰脇に交叉してつける

(刀の二本差し)

醒める 掌を前に向け指頭を前方にさした

人差指と親指を閉じ(指頭をつけ合わず)て

眼の横につけて、両指をパツと開く。眼が開

いたこと。

更に 「一層」と同じ手まね「その上に」

とか「重ねる」とか倍にす」とかの意味。

去る 「行く」の(向)と同じ手まね。

猿 左手の手甲の上を右手で搔く、猿の習

性を表わしたもの。

策 掌を上に向けて、五指を少し彎曲した

左右両手を斜めに重ねて、籠の編目をつく

り、両手を左右に離して共に上へまらく籠の形を描く。

騒ぐ 掌を前に向けた手の甲を口もとにつけ、五指の指頭を集め合せては開き、開いては集める運動をくり返す。「わめく」こと。

散会 「会」の手まねをして、両手で左右に「去る」手まね。

参観 「探す」と同じ手まね。見て廻ることを表わす。

参詣 寺神社を拜む。

賛成 右手を挙げる。

産婆 生む一介抱一女

散髪 ジャッキを持った手つきで、髪の上を刈る身振り。

散歩 指頭を下にさした両手の人差指を前にならべて、足を運ぶように交互に前に徐うに進ませる。

算術 人差指中指薬指で三の数を表わして

指頭前方に掌を上向けた両手を左右からかち合わせて（互の掌の脇がつけ合う）は、左右に離す運動を二三度くり返す。互の数（三）を合わせては離す加減算術。

残念 「遺憾」と同じ。

シ

死（死ぬ）合掌した両手をそのまま、横たえる。

試合 「競う」と同じ手まね。

思索 両腕を胸に組み、「考える」の手まね。

週間 左の手で数の「七」を表したのを、右の手の人差指を、その「七」の周りをぐるりと一周させて、「一」の数を数わすと一週間となる。週間なら、二週間一二。

○一週間を、寝る一七としてもよい。二週